

経営比較分析表（平成30年度決算）

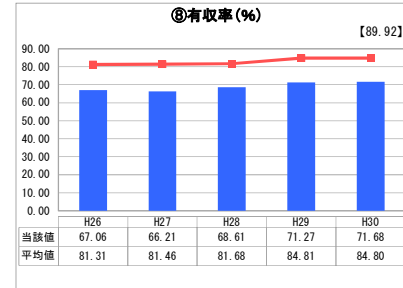
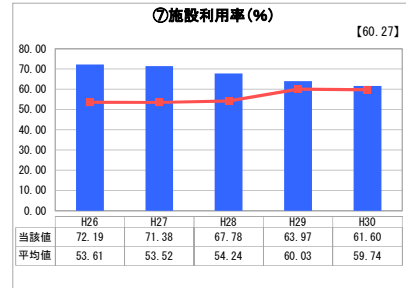
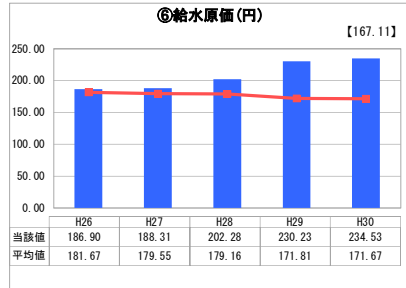
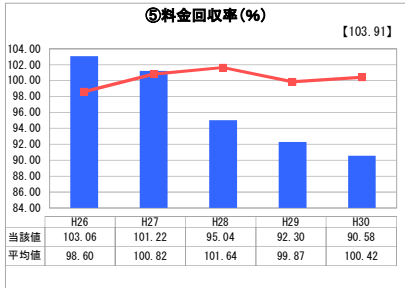
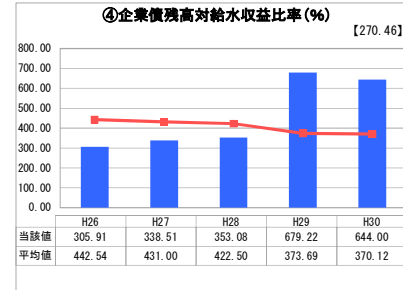
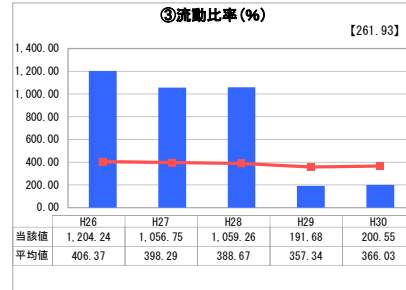
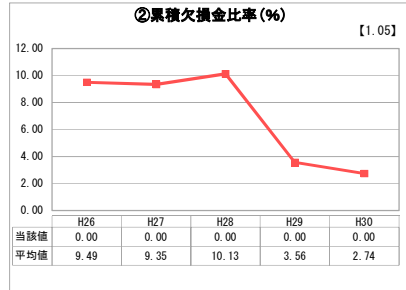
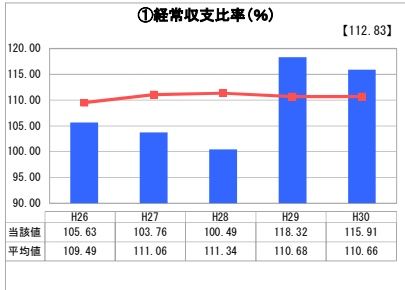
長崎県 対馬市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	61.21	99.90	4,150	

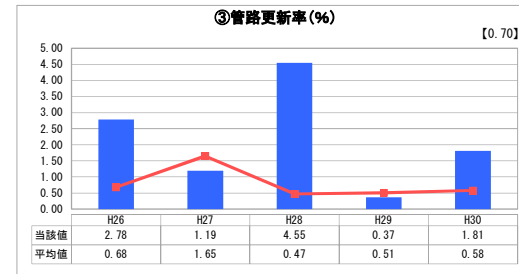
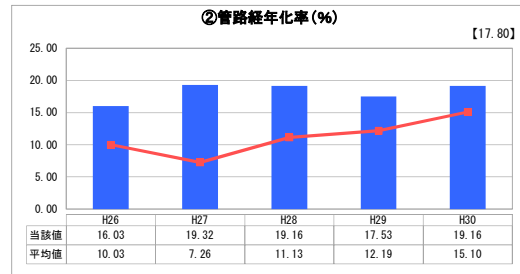
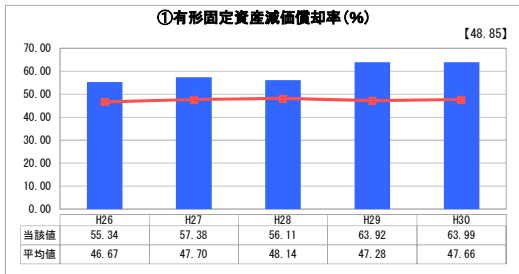
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
31,005	707.42	43.83
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
30,492	58.57	520.61

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は平均値及び100%を上回っており、経営状況は比較的健全な水準である。
 ② 流動比率は平均値を下回っているものの200%程度を維持しており、短期的な支払能力は確保できている。
 ③ 企業債残高対給水収益比率は、平成29年度から簡易水道事業特別会計と経営統合したことにより、類似団体平均値よりも大幅に上回っている。今後は健全経営に向け企業債残高削減に取り組んでいく必要がある。
 ④ 料金回収率は、平均値及び100%を下回っている状況であり、経費の削減を検討する必要がある。
 ⑤ 給水原価は類似団体平均値を大幅に上回っており、コスト改善が必要である。
 ⑥ 施設利用率は平均値を上回る稼働率になっているが、有収率は類似団体平均値よりも低い70%台であることから、漏水等の要因により配水量が増加したため稼働率が高くなっている可能性がある。
 ⑦ 有収率については平均値を大きく下回っており、収益につながっていない状況である。漏水調査の実施と速やかな補修を行うなど有収率の向上に努めていきたい。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率及び管路経年経過率については平均値よりも高い水準となっている。全体的に施設の老朽化が進んでおり、寒波による漏水や近年頻発する大雨災害等により破損する管路が多いため、長期的視点に立てて年次的に管路の更新を進めていく必要がある。

全体総括

対馬市水道事業においては、人口の減少に加え節水型社会の定着による水需要の減少、施設の老朽化や、多様化する市民ニーズに応じた良質なサービスの提供、事業経営をめぐる内外の動きなど事業をとりまく課題が山積みとなっている。
 特に施設の老朽化については、国庫補助制度の見直しなどの状況も踏まえ、限られた財源のなかでこれらの課題に対応していくために、計画的・効率的な水道施設の改築・更新や維持管理・運営、更新積立金等の資金確保方策を進める必要がある。